

感動の人生の創造業として事業を展開 独自の装置開発により選手の夢を応援する

事業内容

ボクシングジム、学習塾、体操教室、半日型デイサービス、日帰り温泉施設、飲食店、シニア向け生活サポートサービスの運営

知的財産権と内容

特許番号第5057178号	離隔攻撃判定装置
特許番号第5435374号	競技リング
商標登録第5331981号	SUGAR
商標登録第5342883号	SUGAR\健康ボクシング

他 商標権2件

(2024年9月現在)

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



代表取締役 伊田 武志さん

青少年健全育成事業から、 地域全体の活性化業として幅広い事業を展開

株式会社クリエイティブサポートは、1990年に伊田代表が飲食店を創業したことから始まった。現在は「シュガーナックルボクシングジム」のほか、青少年の勉強支援を目的とした学習塾や、青少年が感謝すべき“母親”にスポットを当てた女性向け体操教室、半日型デイサービス等、多角的に事業を展開している。これらに加えて、カフェや日帰り温泉施設等も運営しており、各事業・サービスの循環による「地域全体の活性化」を図ることで、経営理念「心と体の健康を促進し、感動の人生を創造する」の実現に努めている。中でもボクシングジムは、伊田代表を含む、出身高校ボクシング部のOBらで設立したもので、東京五輪ボクシング女子金メダリストの入江聖奈選手も輩出した。当初は別の方が代表を務めていたが、後に伊田代表が引き継ぎ、現在に至る。

「健康ボクシング」を提唱！ 新たな大会新設に伴い「離隔攻撃判定装置」を開発

伊田代表が引き継いだばかりの頃の「シュガーナックルボクシングジム」には、会員は13名しか在籍しておらず、赤字経営を強いられていた。こうした中、幅広い層の健康促進を目的とした「健康コース」を新たに設立。従来、リングに上がるのは“選手”のみが許されるという慣習があったが、当ジムでは健康コースの

会員を含む全会員がリングに上がり、ボクシングを行うことを特徴とした。こうした取り組みの結果、会員数は当時のボクシングジムとして国内最大規模の220名にのぼった。しばらくすると、同コースでは「ケガや厳しい減量をしたくない」といったニーズがある一方で、「練習の成果を発揮する場が無いこと」が課題となった。そこで伊田代表が、健康を目的にボクシングを行っている方の成果の発揮の場として、「健康ボクシング大会」を開催した。「健康ボクシング」は、「マスボクシング」というボクシングの練習方法を取り入れた試合形式で、攻撃を相手の身体に当たる寸前のところで止めるため、ケガの心配なく、安心安全にボクシングを楽しむことができる。開催当初はレフリーが肉眼で判断のうえ勝敗を決めていたが、試合に真剣に臨む選手らに感化され、相手に打撃を当てなくとも、パンチヒット同様の有効打を認識し、ポイントの有無を公正に判断できるよう「離隔攻撃判定装置」の開発に取り掛かった。

同装置の開発には、鳥取県産業振興機構と大手システム会社と共同で取り組んでいたが、当初は不具合が多く、悩まされた。中でも、センサー装置が読み取った情報をモニター装置に送る際に用いるBluetoothが、会場の広さや人の有無、ボクシングリングのワイヤー等によって通信が左右されてしまい、その通信状況を安定させることが難しかったという。同装置は他にも

様々な課題を乗り越えた末、完成した賜物だ。

選手の活躍により、知財もさらに広い世界へ



伊田代表は装置の開発当初から、他者による模倣を防ぐべく、特許出願を検討していた。そこで商工会議所へ相談したところ、弁理士を紹介され、相談に至った。共同開発先である大手システム会社が特許の出願に慣れていたこともあり、相談や手続きは比較的スムーズに進められたという。その後、続けて商標出願も行った。こうして知財を取得した結果、「装置を安心して世に出せるようになった」と伊田代表は話す。また、チラシやTシャツなどには当ジムのロゴマークをつけることで認知度の向上を図っており、「当ジムが有名になったのは、当社の商標を背負った選手たちが、試合で結果を残してきてくれたおかげだ」とも話した。

知財取得へのハードル



知財の取得については、弁理士や支援機関等のサポートもあり、特段困ったことは無かったという。知財取得においてハードルとなりがちな「資金面」について

も、商標出願では自社で書類作成等の手続きを行うことでコストを抑えることができた。手続きについては、技術・情報関係の整理は伊田代表、必要書類の手配は当社の総務担当者、というように分担し、弁理士と相談しながら取り組んだそうだ。

知財取得を目指す経営者へのメッセージ



「製品開発では、人が真似たいと思うような魅力的なものを創らなければならない。そして“オンリーワン”のものが完成したときには、真似されないよう知財で守ることが重要だ」と伊田代表は語る。また「自社製品やサービスが“オンリーワン”であることは、広い世界に出てこそ気付くことができる」と続けた。今後、当社では技術革新や世間の動向を見ながら、既存装置のアップデートのほか、「健康ボクシング」をパラリンピック種目にするという夢に向けた国際特許の取得、新形式の試合設立に伴う装置の開発等を行うよう検討している。健康促進、ひいては地域活性化に向けて、アイデアマン・伊田代表が率いる株式会社クリエイティブサポートはこれからも突き進んでいく。



簡単組立て！軽量設計！高耐久性！のボクシングリング



直接打撃を与えなくても有効打を検出表示する離隔攻撃判定装置



知的財産活用のポイント

最終目標に向けてマイルストーンを設定 代表率いる“チーム”で知財活用へ

様々な事業を幅広く展開している当社。経営理念である「感動の人生を創造する」ことに向けて、必要な事業や、各事業で求められるサービスを真摯に考え、突き詰めてきた。このように経営理念（最終目標）の実現に向けて、マイルストーンを設定

し、着実に達成する「計画性」と「実行力」が当社の知財活用、また経営に大きく貢献してきた。また、伊田代表は常にアンテナを張り、新たな事業・サービスの展開を検討しているという。今後も世界ボクシング連盟での装置の採用や、パラリンピック種目を見据えた国際特許の取得等に向けて、従業員や弁理士、支援機関と一丸となって取り組んでいく。

COMPANY DATA

取材：2024年9月

企業名：株式会社クリエイティブサポート 所在地：鳥取県米子市両三柳323番地1 電話番号：0859-30-4670

URL：<https://creativesupport-j.com/> 創業：1994年 資本金：1000万円 従業員：70名

